

酒がとりもつ村の絆



▲山東町志賀谷のオコナイ①

同じ酒でも「神事」の「神酒」となると、なぜこも威儀をただしてしまうのだろう。湖北の村々では、村落共同体としてのキズナがいまも厳然とうけつがれており、氏神を中心として村の掟を定め、村人の行動の突出を戒めて自治運営にあたってきた。

その最たる儀式とも言える行事が「オコナイ」である。そこでの酒は、神と人と、村人同士を結ぶ糸のようにも見える。

酒は扇子と同様に、あいさつ、作法の重要な一部分であり、塩とともに清めの媒体であり、約束ごとの絶対的なしるしでもあった。村人が交代で「一年神主」をつとめたり、村の代表として精進潔斎し、一年間氏神に仕える「禰宜（ぬぎ）」の役目をつとめたりしなければならぬだけに、酒席の表情は真剣そのものである。

写真①は、山東町志賀谷のオコナイ。村人

（オコナイ組の人）は袴（かまき）を着て頭屋（かぶせ）へ集まり、盃のあと舞いが舞われ、標（しるし）の木の枝にモチを花のようにつけた「花の頭」を中心に氏神へ詣でる。まさに、氏神の子であることを自覚し、村のために一身を捧げることを誓う儀式のようでもある。

オコナイは、奈良朝時代に、十一面観音に自己懺悔し、国家鎮護（くにあまもり）（村内安全）と五穀豊穰を祈った十一面観音梅過会（うめかき）がルートツとされているが、時代と共に「神事」の色合いが強めてきた。膳のないこの盃の儀には、手許が震うような緊張感が漂っている。セキ払いひとつも気になる敬肅さがある。盃を呑み干す、盃を交わすということは、本来、誓いを立て「血判状」と同じ意味をもっていったんだな、ということがうなずける。

写真②は木之本町杉野のオコナイに登場する「ハナ」と呼ばれる見事な造花。オコナイ

のシンボルであり、雪の夜、神社の堂内のこのハナの前で「祝詞」と呼ばれる直会が執行される。

祝詞は区長のあいさつではじまる。次に豆腐と漬物だけの膳が運ばれ神酒が注がれる。新区長の「それでは遠慮なく……」のことで席が開かれ、続いて二杯目の酒が出る。頭屋代表の「おさかなを用意するはずですが時節柄……」のあいさつが終わると、三回目の神酒。このように式順はきっちり決められ、あいさつ言葉も、何世紀にもわたって変わらずぬまに受け継がれてきた。盃は汁碗ほどもある大きなもので、海外勤務の人もこの日にはわざわざ帰国して列席するほどだ。

写真③は浅井町八島の若衆組。中学生になると「入徳会」「不老会」といった若衆組へ入会する義務を負っている。十二歳はマエガミ。この若衆組がオコナイの行事を実質的に取り仕切る。未成年ではあるが酒を出すの目だけは、村中で未成年が神酒を口にするのを認めている。盃を通して、世帯主の代理ができる年齢に達し、村の一員になったという自覚と、村の掟をからだで覚えさせるのである。

このように、村のキズナは酒がとりもっている。時には、「酒だ、酒だ、どーんと酒出せ!!」の無礼講もある。酒のおかげで湖北の村が保たれてきた。湖北の酒はいい酒だ。



▲木之本町杉野のオコナイのハナ



▲浅井町八島の若衆組
▲余呉町下丹生のオコナイ



③

お酒はなぜ飲むのか

毎日、浴びるほどお酒を飲んで通の人が、酒の味や肴のことは知っていても、必ずしもお酒にまつわる話に通じているわけではない。なにせ、お酒の歴史は、米づくりが始まった弥生時代にさかのぼるといふから、神や祭りなど、わたしたち

ちの暮らしのなかに、お酒は深く結びついている。なぜなら、お酒にまつわる活きのいい話を仕込めば、おいしい酒の肴になること請け合いだ。

お酒と水の関係は？

お酒の味が甘口、辛口とよくいいますが、お酒の糖分が多いか少ないかの違い。糖分が少ないと辛口になりますが、これは醸造中に酵母の発酵が旺盛で糖分が少なくなるから。カルシウムをたくさん含んだ硬水は、酵母の発酵を盛んにする性質があり、一般的に硬水を使ったお酒は辛口、軟水を使ったものは甘口になります。伊吹山系の伏流水は、硬水が多いので、湖北の地酒は辛口のものが多いです。でも、最近では軽薄短小の時代。あまりクセの強いお酒は好まれないようです。

お酒と米の関係は？

お酒の原料には、大粒で軟質のうるち米がよく、「酒造好適米」という専門用語で呼ばれています。酒造好適米は、兵庫県や岡山県など酒どころの周辺で多くつくられてきまし

吟醸酒って何？

本醸造の清酒のうち、精米の歩合が六〇パーセント以下の白米を使用しているお酒。つまり、お米のいちばん良いところだけを使ったお酒です。そして、麹造りもろもみの発酵温度もすべて低温で行っています。低温で発酵させるので、濁りがありません。独特の吟醸香があって、喉ごしもたいへんなめらかです。湖北の地酒にも、吟醸と銘打ったものがあります。一度飲み比べてください。

純米酒って何？

その名のとおり、純粋に米と米麹と水以外

醸造酒と蒸留酒

日本酒とワインは醸造酒、ビール、ウイスキー、焼酎は蒸留酒。米、ブドウ、ライ麦、大麦、イモなど、いろんな原料を発酵させてアルコールをつくるわけですが、ウイスキーや焼酎などは、蒸留によって濃縮し、アルコール濃度を高めているので、口当たりが辛くなります。いっぽう、日本酒やワインは、糖分を発酵させただけのお酒ですので、甘味を残しています。日本酒やワインには、少し塩の利いた肴が合うし、ウイスキーや焼酎には、クラッカーやチョコレートだって合います。なかには、日本酒にお餅という人もいますが、そんな人は要注意。アル中が糖尿病の一手手前かもしれません。

酒屋の軒先に吊ってある丸い玉は何？

巨大マリモのようにも見えます、大きな蜂の巣のようにも見えますが、実は杉の葉を球状に束ねたもの。杉玉とも酒林ともいって、造り酒屋の守り神的な看板です。また、新酒が出たときに、新しい杉玉を吊ってお客に知らせ

るサインでもあるのです。

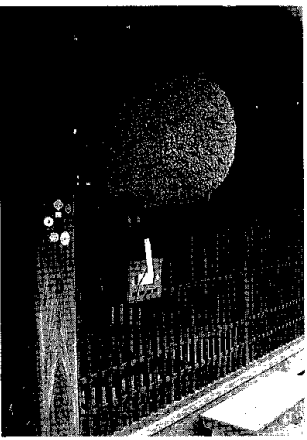
奈良の三輪山を神体として祀る大神神社は、お酒の神様として有名ですが、杉玉は、一般に三輪山の杉の葉でつくったものが使われています。湖北では、杉玉を吊す風習はあまりなかったようですが、地酒の流行で吊すお店も多く見られます。

火事見舞いにどうしてお酒を贈るの？

火事にアルコールというのは、一見そぐわないうようにも思いますが、湖北だけでなく、多くの地域でお酒を贈るようです。昔、江戸の火消しは、各町が町の費用で雇っていたプロ集団でした。鎮火したあと、火消したちの慰労として、お酒をふるまうために贈ったのではないのでしょうか。

お酒好きの人をなぜ左党というの？

お酒好きの人は、独酌になりがちですが、右



▲杉玉は新酒が出たというサインだった。酒林ともいう。

手に徳利をもって左手には盃、というのが一般的なパターン。お酒を飲む手が左手になるので、左党というそうです。また、大工道具のカナツチは右手、ノミは左手に持ちますが、ノミ手は左手、つまり飲み手は左党という説もあります。

お酒の銘柄に同じような名がつくのは？

日本酒の銘柄で多いのは、「正宗」「鶴」「菊」「桜」「娘」「自慢」「誉」など。湖北のお酒にも、「浜正宗」「鳩自慢」「湖の誉」などというのがありますね。「正宗」は、音読するとセイシュウ。清酒に通ずるからつけられたといえます。「鶴」は長寿の意味、「菊」はお酒が利くの意味でしょう。「大潮」や「七本槍」などは、湖北らしくて、名前を聞いて近江のお酒とわかるのがいい。

酒の肴の語源は？

肴というのは、酒菜（さかな）の意味。つまり、お酒とともに食べるものは、すべて肴というわけですね。魚を意味するようになったのは、やはり魚が肴にいちばん合うからでしょう。いま、めでたい最上の肴といえ、鯛といたところでしょうか。でも、昔はピタタリの肴といえば、昆布、スルメ、塩梅などでした。結婚式で、よく親族固めの盃に出るでしょう。あれですね。

酒は近江の

大湖

たいこ

日本酒で乾杯!

滋賀第一酒造協業組合

滋賀県長浜市国友町270番地 TEL(0749)63-2800